

First Access Booklet

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28

このブックレットでは、ストレージシステムを使用するために必要な最小限の設定について説明します。

はじめに

作業時間

このブックレットに記載された作業の完了までの時間の目安はおよそ 13 分です。
作業が中断しないように十分な作業時間を確保して開始してください。

作業準備

設定を行うための PC を準備してください。
管理 PC の要件については、VSP One Block Administrator ユーザガイドを参照してください。

困ったときには

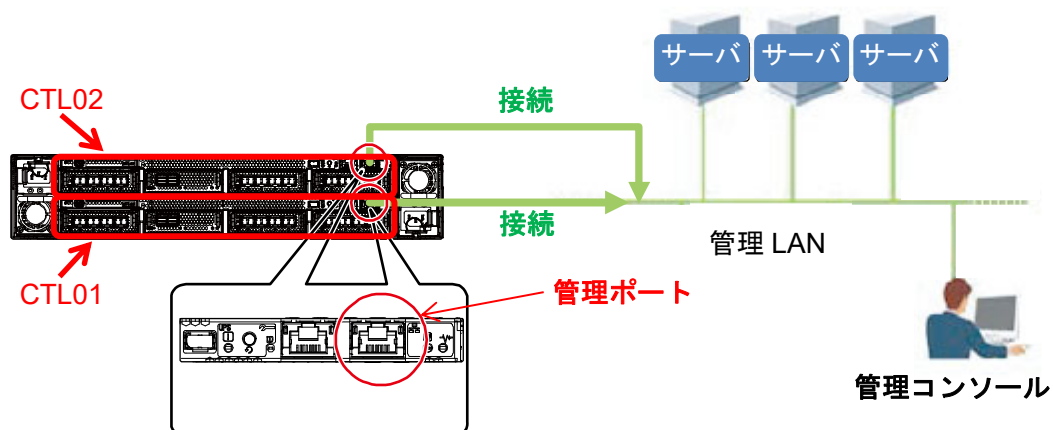
本資料の詳細情報はシステム管理者ガイドの記載を参照してください。

掲載されている画面図について

このブックレットに掲載されている画面は、予告なく変更になる場合があります。

1. ストレージを管理 LAN に接続

(1) 管理コンソール、CTL01 の管理ポート、および CTL02 の管理ポートを管理 LAN で接続してください。



(2) maintenance utility にアクセスしてください。

- (1-1) 管理コンソールのブラウザを起動します。
- (1-2) ブラウザのアドレスバーに管理ポート IP アドレスを入力します。
(例) <https://<CTL の管理 LAN の IP アドレス>/MaintenanceUtility/>
- (1-3) 以下のユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン] ボタンをクリックします。
ユーザ名: maintenance
パスワード: raid-maintenance
- (1-4) メニューから [システム管理] — [パスワードの変更] を選択します。
- (1-5) パスワードをデフォルトの値から変更します。
- (1-6) [完了] をクリックします。

2. アラート通知の設定

※この設定はスキップして後から行うことができます。

- (1) アラート通知ウィンドウで「設定」ボタンをクリックします。

- (2) [Email] タブをクリックします。
 (3) Email 通知の各設定項目を入力してください。
 (4) 各設定項目を確認して、「適用」ボタンをクリックします。
 (5) アラート通知ウィンドウの Email タブで「テスト Email を送信」をクリックします。
 設定した送信先に (Mail title : (Storage System Name) Report)のメールが届くことを確認します。

＜入力項目＞

| 項目名 | 入力 |
|---------------------------------|-------|
| Email 通知 有効 / 無効 | オプション |
| メールアドレス (To) | |
| メールアドレス (From) | |
| メールアドレス (Reply-To) | |
| 通知する付加情報 | |
| メールサーバ Identifier / IPv4 / IPv6 | |
| SMTP 認証 有効 / 無効 | |
| SMTP 認証 アカウント | パスワード |
| SMTP 認証 パスワード | |

「オプション」となっている項目は入力不要です。
 初期設定完了後に設定し直すことも可能です。

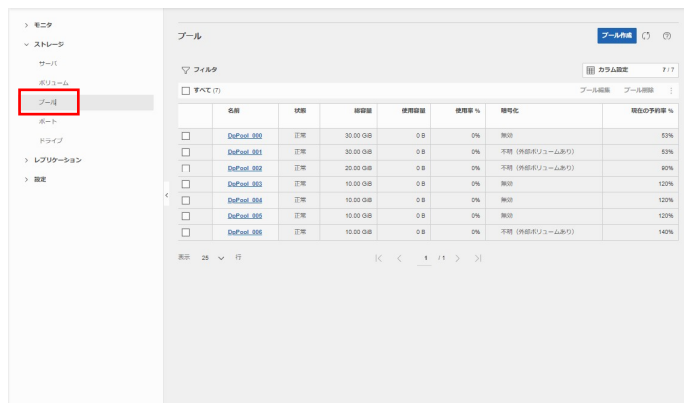
3. VSP One Block Administrator にアクセス

- (1) ストレージの VSP One Block Administrator にアクセスします。
- (1-1) 管理コンソールのブラウザを起動します。
 - (1-2) ブラウザのアドレスバーに管理ポートの IP アドレスを入力します。
 - (1-3) ユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。
ユーザ名: maintenance
パスワード: (手順 1.(2)で設定したパスワードの値)

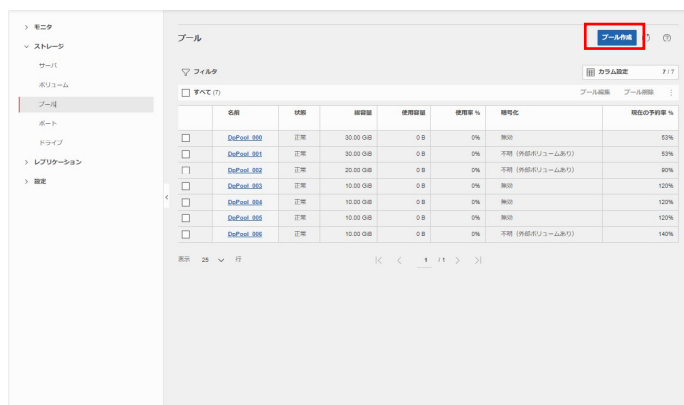


4. プールの作成

(1) ナビゲーションツリーから「ストレージ」－「プール」を選択します。



(2) 「プール作成」をクリックします。



(3) 「プール名」を入力して、「実行」をクリックします。

プール作成

容量 (残量も可)
90.13 TiB

使用ドライブ数
26 個

残りドライブ数
12 個

Dynamic Drive Protectionは、ドライブタイプがHDD以外でRAIDレベルがRAID6の場合に有効にできます。
 ▲ドライブ情報異なるドライブを同時に選択すると、障害構造のプールが作成されます。障害構造のプールにはスナップショットを作成できません。

プール名
pool name

暗号化
無効 有効

構成

| ドライブ情報 | Dynamic Drive Protection | RAIDレベル | 使用ドライブ |
|------------------------------|--------------------------|---------|--------|
| SSD / NVMe / - / 1.9 TB | 有効 | RAID6 | 20 |
| SSD / SAS / - / 3.8 TB | 有効 | RAID6 | 0 |
| HDD / SAS / 10k rpm / 2.4 TB | 無効 | RAID6 | 0 |
| HDD / SAS / 7.2k rpm / 10 TB | 無効 | RAID6 | 8 |

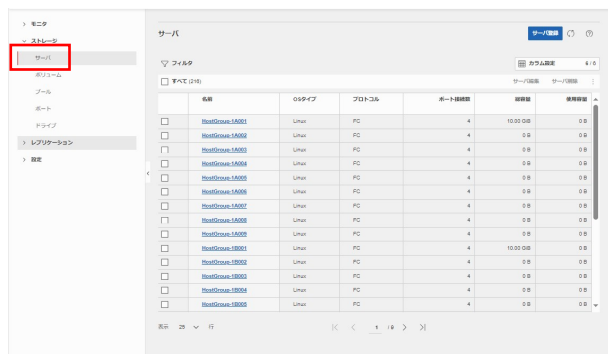
キャンセル 実行

＜入力項目＞

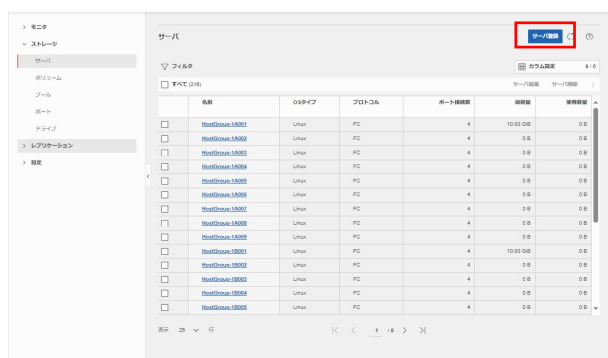
| 項目名 | 説明 |
|------|------------------|
| プール名 | 作成するプールの名前を入力します |

5. サーバの登録

(1) ナビゲーションツリーから [ストレージ] – [サーバ] を選択します。



(2) [サーバ登録] をクリックします。



(3) 必要な項目を入力して、[実行] ボタンをクリックしてサーバを登録します。

サーバ登録

サーバ名
AppServer1

OSタイプ
Linux

プロトコル
FC / iSCSI

iSCSI イニシエータ名 (例: iqn.1992-01.com.company.server)
iqn.1992-01.com.company.server

+ iSCSI イニシエータ名を追加

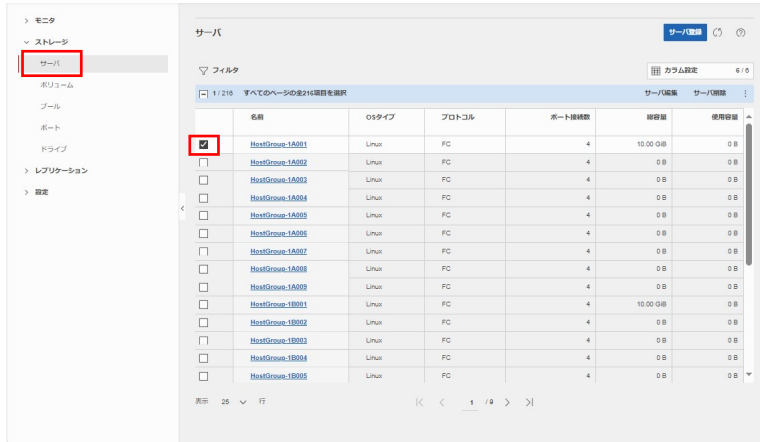
キャンセル + さらにサーバを登録 実行

＜入力項目＞

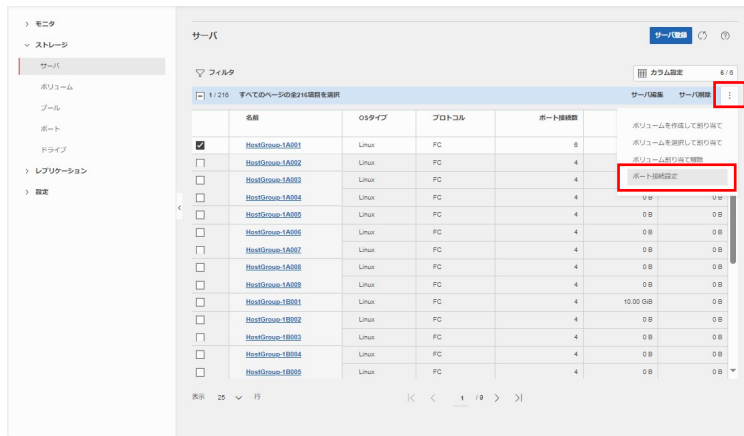
| 項目名 | 説明 |
|-------------------------|---------------------------------------|
| サーバ名 | 登録するサーバ名を入力します |
| OS タイプ | 登録するサーバの OS タイプを選択します |
| プロトコル FC / iSCSI | サーバとの通信に使用するプロトコルを選択します |
| WWNs / iSCSI イニシエータ名 | 登録するサーバの WWN または iSCSI のイニシエータ名を入力します |

6. サーバに接続するポートの設定

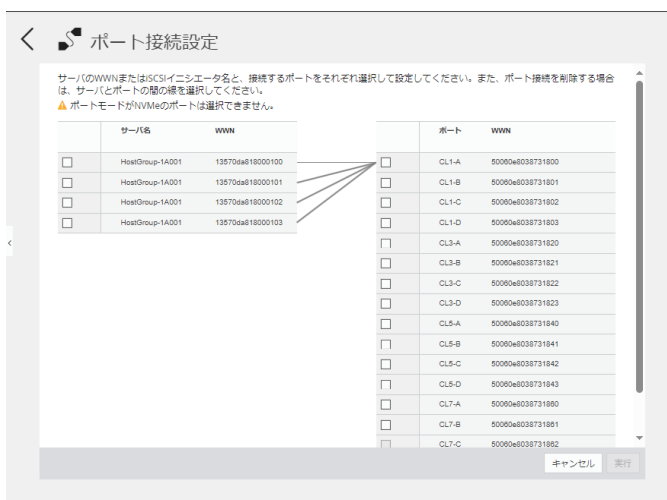
- (1) ナビゲーションツリーから [ストレージ] - [サーバ] を選択し、サーバー一覧から対象のサーバのチェックボックスにチェックを入れます。



- (2) アクションバーの三点リーダーから [ポート接続設定] をクリックします。



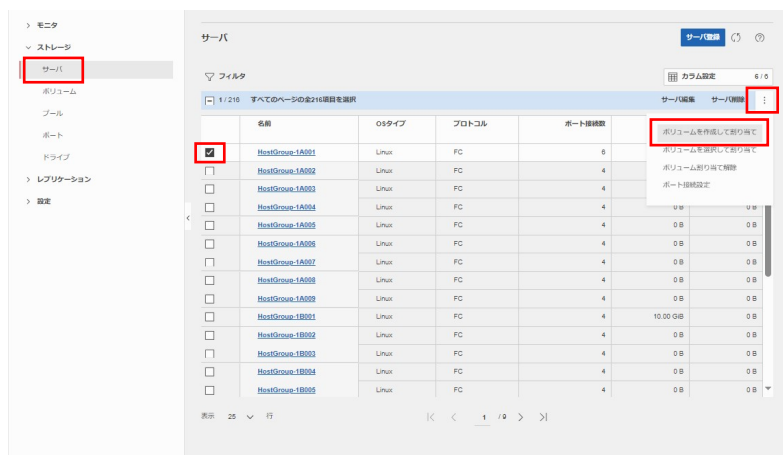
- (3) サーバの WWN または iSCSI イニシエータ名と、ストレージシステムのポート ID をクリックしてパスを設定します。



- (4) [実行] をクリックします。

7. ボリュームの作成とサーバへの割り当て

- (1) ナビゲーションツリーから「ストレージ」－「サーバ」を選択し、サーバー一覧から対象のサーバのチェックボックスにチェックを入れます。
- (2) アクションバーの三点リーダーから「ボリュームを作成して割り当て」をクリックします。



- (3) 必要な項目を入力してボリュームを作成し、「実行」をクリックしてサーバに割り当てます。

ボリュームを作成して割り当て

サーバ
HostGroup-1A001

ボリュームを作成してサーバに割り当てます。ボリュームの情報を入力してください。

プール選択
フィルタ条件: 縮小化
(指定しない)

プール
DpPool_002

⚠ 指定済みのプールでは容量削減を設定できません。

容量
1 GiB

ボリューム数
1

ボリューム名
Volume

開始番号
7

桁数
2

プレビュー
Volume07

キャンセル 実行

＜入力項目＞

| 項目名 | 説明 |
|--------|---------------------------|
| プール | ボリュームを切り出すプールを選択します |
| 容量 | ボリュームの容量を入力します |
| ボリューム数 | 作成するボリューム数を入力します |
| ボリューム名 | 作成するボリュームの名前を入力します |
| 開始番号 | ボリューム名の後ろに付加する開始番号を入力します |
| 桁数 | ボリューム名の後ろに付加する番号の桁数を入力します |

- (4) 「実行」をクリックします。
選択されたサーバと選択されたボリュームがマップされます。

設定の完了

これで設定作業は終了です。

詳細については『VSP One Block Administrator ユーザガイド』を参照してください。